

With

2004

春

vol. 28

ウィズセンター情報誌

- 輝く女性トーク&トーク ～チャレンジする女性たちへ～☒
- 参画社会へLet's Go! ～NPO法人ふれあいサポートちゃていず～☒
- 平成16年度事業計画☒

輝く女性

トーク & トーク

社会経済の活性化には女性の様々な分野への積極的なチャレンジが不可欠です。

女性のキャリア戦略や男女共同参画の思いなど、今まさに輝いているお二人の熱い思いを語っていただきました。

プロフィール

齋藤 聖美

（とう きよみ）

慶應義塾大学経済学部卒。
日本経済新聞社、ソニー勤務を経て、ハーバード・ビジネススクールに留学、日本人女性2人目のMBAの学位取得。経営コンサルタントをしながら、ネットビジネスの起業に多く関わる。

平成12年、(株)ジェイ・ボンド(現ジェイ・ボンド証券(株))を設立。郵政行政審議会委員。

齋藤 聖美

大西 珠枝

（おにし たまえ）

京都大学法学部卒。昭和53年文部省入省。平成4年、静岡県掛川市教育長。その後文部省婦人教育課長、社会教育課長、総理府男女共同参画室長、文化庁伝統文化課長を歴任。

平成14年7月から岡山県副知事。

大西 珠枝

対談 「チャレンジする女性たちへ」

自身で考える価値と他人が認める価値。
その両方を大切にしてほしい。

大西：齋藤さんは常にチャレンジ精神にあふれていますが、原動力は何ですか？

齋藤：もの忘れが激しくて（笑）。今度はきっといいことがあるにちがいないと思うし、新しい話を聞くと、「あっ、面白そう」と思うから。

大西：講演で、先人のいない不安をおっしゃっていましたが、現在の女性はどのように？

齋藤：選択肢の幅は確かに広がっています。しかし、「仕事と家庭の両立で疲れて、あんなにまでして働きたくないわ！」という若い女性も増えてきています。

大西：その点は日本の勤労者の働き方に問題があると言われています。かつては夫が長時間労働によって妻子を養うというモデルがありました。現在の経済状態では、女性も働かざるを得ない。そうなると、家庭生活との両立が負担になってきます。それを見た若い世代は、経済的自立を考えると家庭生活に飛び込めない。逆に家庭生活を大事にしたいと思うと経済活動は大変！と思ってしまう。その点、ベンチャーのような小回りのきく企業だと、働き方が工夫できるのでしょうか？

齋藤：大企業には一つのケジメがあって、守らないと收拾がつかえません。その点、融通がきくベンチャーは、育児や

介護など何らかの事情がある人には便利だと思います。

大西：講演の中で、「新しい事業を始めることは、立派と認められているか？」というアンケートに対し、「はい」の答がアメリカ91%、フランス83%、日本8%という結果だったというお話がありました。なぜ日本の社会風土はベンチャーに冷たいのでしょうか？

齋藤：アメリカは敗者復活戦ができます。その会社でうまくいかなかったも他で働けばいい。会社を起こして失敗しても、次のチャレンジができる。リスクをとりやすいのです。しかし、日本でリスクをとるのは単なる蛮勇になる可能性がある。労働市場に流動性がないから、どうしても皆が安定志向になってしまう。今の若者はベンチャーには興味を持っています。しかし、金儲けはよくないというのが頭にしみこんでいる。「お店を持ちたい」という若い女性も多いのですが、それは自己実現としての手段であって、金儲けという点が欠落しています。経済的自立のためにお金を得ることは重要という思考を徹底すべきです。

大西：ずるいことをして儲けた人の例が多いからでしょうか（笑）。齋藤さんは管理職の経験もおありですが、女性の場合、「管理職なんて…」と退けてしまうことがよくあります。でも、どんな組織でもできない人に声はかけません。自分の価値は自分自身で考えることも大切ですが、他人が「あなたなら！」と認めてくれる価値も大事にしなければなりませんね。

齋藤：傍観者に安住しないで、昇進レースに参加してほしいと思います。そこで自分が昇進から外されたりといった



苦い経験によって、人の痛みが分かり成長できるのですから。☒

大西：そして現在はベンチャーの経営者として、リスクをとる当事者ですね。☒

斎藤：最初はとても恐かった。成功するほど恐くなりました。出資金が億単位になって、何かあっても自分で返せないことが分かった時、「あの人たちが選んで出資したんだからいいや！」と思うようになりました（笑）。人間って、どんどん凶々しくなりますね。☒

大西：あきらめることなく歩み続けておられる斎藤さんの座右の銘は何でしょう？☒

斎藤：“ 為せば為る ” と、いつも言い聞かせております。☒



大西：なるほど。では、東京からみた岡山のビジネスの可能性は何でしょう？☒

斎藤：岡山というのは程よい距離の場だと思います。中央に営業に行くのにさほど遠くない。しかも距離を置いて経済活動を見ることができる。距離があることで東京では当然のことも、「おかしんじゃない？」と疑問を持つことができます。それと岡山は教育県といわれていますが、県外で活躍しておられる方が多い。その方たちが県内でビジネスを始められる環境を整えばよいと思います。☒

大西：あるデータによると、岡山県は女性社長の比率が全国平均より高く（11位）、大いに期待が持てます。また、今日は企業の様々な経済活動の中に生かせるヒントもたくさんお聞かせいただきました。最後に女性の方々へメッセージをお願いします。☒

斎藤：私は現在53歳です。今の時代、年齢は全然、関係ありません。年をとっても、少々、体が不自由になっても、IT発展のおかげでいろいろなことができます。年齢に関係なくチャレンジできるいい時代です。ぜひ、がんばっていただきたいと思います。☒

講演☒

「そうだ！社長になろう」 斎藤聖美☒

対談に先立ち、持ち前の度胸とチャレンジ精神で次々と華麗なキャリアを築いている斎藤さんのリスクを恐れない体当たり人生が語られました。☒

結婚は女の幸せ？☒

18歳で会社に入り、22、3歳で寿退社する。私が大学を出て最初に就職活動をした30年前の女性の平均的な勤労状態でした。当時、容姿端麗を問わず女子可という就職口は日本経済新聞社ぐらいしかなく、そこに入社しました。配属されたのは電算機本部。こんな機械と青春を共にしたくない！と思い、すぐに寿退社を目論みました。運良く都合のいい男性が現れ、会って5、6回で結婚。しかし、会社を辞めるという不純な動機の結婚が長く続くはずはなく、瞬く間に離婚です。（今は再婚していますが…）離婚し失業者になった私は、何とかソニーに中途採用されることになりました。しかし、ここでも壁です。先の見えない不安。ロールモデルとなる女性の先輩がいないのです。「このまま働いていて、どうなるんだろう？」こうした気持ちが私をMBA留学へと駆り立てました。☒

成功への3か条☒

留学のおかげで、いろいろと面白い仕事に就くことができました。モルガンスタンレー時代、再開発事業の資金調達を任せられました。外資は成功報酬。案件がうまく進んでいる時は、ボスたちが私に目をかけます。自分の報酬アップにつながりますから。しかし、大口の出資者が手を引いた瞬間、ボ

スたちもスーッと退きました。結局、責任を取られたのは私だけ。「サラリーマンなんか、ばかばかしくてやってられない！」「えーい、会社つくっちゃえ！」

最初はたった一人のコンサルティング会社。それが95年にインターネットプロバイダーの社長を友人から頼まれた時から、組織を使って会社を経営することになりました。実際、ベンチャーは零細企業です。人なし、物なし、金なし。だから工夫をします。人でも、物でも、資源でも有効に活用すれば面白いことができる。使い切るための視点をもつことで新しいビジネスチャンスが拡がるのです。私の成功への3か条は、1.怠ける工夫をする。仕事でも、家庭でも、一生懸命しようとする、その反動で「私の人生、何だったの？」がきます。人を育て、人に任せて、上手に手抜きをしましょう。2.亀になる。ウサギと亀の競争で亀が勝ったのは目標だけを見ていたからです。他人と比べず、自分の目標だけを見ましょう。3.IT機器を上手に使って、時間を有効活用する。現在、女性が置かれている環境は、まだまだ厳しいものです。ということは、女性が失うものは少ない。リスクが少ないのですから、思い切ってチャレンジしてください。☒



参画社会へ Let's Go!

NPO法人 ふれあいサポートちやていず 地域と子どもを元気に！

岡山県の南東端に位置する日生町に平成15年5月、地域と子どもを元気にするNPO法人が誕生しました。備前市の「お父さんバンド」のメンバーや子どもスタッフと「平成16年度入園・入学おめでとう会」打合せ中の「ふれあいサポートちやていず」を訪ね、メンバーにお話を伺いました。

任意のボランティアグループからNPO法人へ

読み聞かせボランティアで知り合った湊照代さんと奥西真理子さん、奥西さんの友人岸祥子さんの3人が、「子連れでもゆっくりお茶を飲みながらおしゃべりができ、ほっと一息つける場所が欲しい」とコミュニティカフェ「ほっと・ちやてい」をオープンしたのが平成12年9月。週2回（月・木）のみオープンしたこのコミュニティカフェを拠点に「ふれあいサポートちやていず」として、「子ども先生塾」や「日生弁で紙芝居をつくろう」など親子、子どもを中心としたイベント交流会、読み聞かせ活動を中心に、様々なボランティア事業を展開するグループに成長しました。



その後、「ちやていずを地域の方々に理解していただきたい。町内のいろいろな機関や多くの方々と共に、より充実した活動をしていきたい。」という思いから日生町内では第1号のNPO法人として認証を受けました。

一人ひとりの能力を発揮して

会員数は30歳代を中心に20歳代から60歳代までの11人（女性9人・男性2人）。会員を増やすのが今後の課題ですが、代表理事の湊さんを中心に、一人ひとりが自分の特技、持ち味を十分に代表理事の湊さんに発揮し活動に関わっています。月1回発行している手作りの会報紙「ちやてい通信」には、岸さんのかわいいイラスト満載。



「私は、雑用係です。」と言って場を和ますのは一番年長者の谷脇輝彦さん。

谷脇さん 関係機関などとの折衝にはなくてはならない存在で、実に頼りになる相談役です。

もっとコミュニケーションを！

「親子参加型のイベントをしても父親の参加が少ない。」「子

育ては母親一人でするものではないのに、コミュニケーション不足から、父親は子育ての枠外にすることが多い。」と残念そうな奥西さん、岸さん。



理事の岸さん(左)と奥西さん

「いろいろな活動を通して最近特に感じることは、大人同士のコミュニケーションが下手だということ。電話やメールなどはよく使うが、顔を見ながらのコミュニケーションが不足。女性も男性も、子どもも大人も、みんなが集まる『目に見えるコミュニケーションの場』をつくっていきたい。」と話す湊さんの言葉には熱い思いが感じられます。コミュニケーションの場を広げるために、町外のNPOとの交流イベントや、コミュニケーション技術を身につけるための「コーチング講座」など新たな企画にもどんどん挑戦しています。

活力ある地域社会へ向けて

現在、日生町の委託を受けて「子ども体験活動・ボランティア活動支援センター」の事業を実施しています。行政や地域とのよいパートナーシップを築き、より充実した活動をしていきたいと考えていますが、まだまだ男性中心の社会で、女性や子どもの活動に対する理解を得にくいのが実情です。

自分たちの住む地域を楽しく活力あるものにするために、政策・方針決定過程の場へ一人でも多くの女性の参画を期待したい！メンバーの大きな願いです。（聞き手：林 里美）



ザッ！商人体験塾 Kidsふれあいパーク

ウイズカレッジ講演会「吉本興業マネージャー奮戦記」

(1月18日開催)

故・横山やすしのマネージャーを務めた元吉本興業プロデューサーの大谷由里子さんを招いて「吉本興業マネージャー奮戦記」と題した講演会を開催しました。

現在は人材開発や起業の活性化のための講演会やコーチング研修に東奔西走。講演では「これからの世の中に必要なのは『心の元気』」を持ち続けること。人はそれぞれタイプが違うが、①相手を認めて ②引き出して ③応援することが大切。そのためには自分の心のキャパシティを広げましょう。余裕が持てたら人のいいところが見えてきます。」

また、阪神大震災で仕事上壊滅的な打撃を受けた体験を元に、「昨日は今日を、今日は明日を保証するものではない。目の前の不幸もプラス思考で笑いのある人生にしましょう。」と、約150人の参加者に終始笑顔でパワフルに話しかけました。



ヤングママ・パパのジェンダー講座

PART-I「男らしさ女らしさ自分らしさ？」

(1月31日開催)

男らしさ、女らしさはどう作られてきたのか…。コミュニケーショントレーナーの水野阿修羅さんは、歴史の流れとともに移り変わってきている衣服や化粧、髪型から楽しく話を展開。ワークショップでは、ゲーム感覚で「自分らしさ」に気づくとともに、夫婦、親子間等での会話の大切さなどを学びました。

PART-II「プチ・コミュニケーション術講座
～楽しく自己表現する～」

(2月5日・12日・19日)

相手の権利を尊重しながら、自分の思いを率直に伝えるには…。3回シリーズの講師はFMくらしき市民パーソナリティーの平松とも子さんと池上清美さんのお二人。「話す、聴く、メモをする」「自分の思いを伝える」「無意識な自分を意識する」をテーマに、楽しみながら自分自身を見つめ、ジェンダーへの理解を深めました。

自立支援講座

「就職準備講座」

(2月22日～3月3日開催)

結婚や出産、育児や介護などを理由に離職した人で、再就職を希望する人を対象に、「社会保険と税金」「資格の生かし方」「求人情報の集め方と見方」「両立支援のための法律・制度」それに「自己表現トレーニング」など、直接的・間接的に役立つ情報をたっぷり盛り込んだ講座を開催。

同じ目的を持つ人同士、和やかな中にも緊張した6日間を過ごし、再就職への心構えを新たにしました。

参加者アンケートから…

- 社会参加、仕事について安易な考えを持っていた自分に気づきました。何を目標にするか、今いる環境をふまえてもう一度考えてみたいです。専業主婦から一歩外に出てみようとしている者には深く考えさせられました。(40歳代・女性)
- 目先の再就職だけでなく、「私は仕事がしたいんだ!」ということを再認識することができました。カラーコーディネートやセラピー等、他ではあまりない内容が盛り込まれていて、楽しく勉強させていただきました。(40歳代・女性)

「起業家応援講座」

(2月20日・3月5日開催)

岡山県産業振興財団と共催で開催した講座の初日は、「起業に必要な基礎知識」の講義の後、先輩起業家「しあわせ菓子工房ウルウル」の沼元浩子さんと「SL化学研究所」の公木真由美さんの起業体験談が語られました。午後からはグループディスカッションでお互いの夢を語り合いながら、和気あいあいとワークを進めていきました。

2日目はビジネスプラン作成の手ほどきを受け、それぞれに作成してきたプランをもとにプレゼンテーションが行われました。

「自分の夢の実現に向けてドンと背中を押してもらったような気がします」との声も聞かれ、大いに盛り上がりました。



「女性情報による
エンパワーメント
戦略」

(2月28日開催)

24年間、国立大学の図書館員として勤務した経験を生かして、兵庫県と大阪府の女性センターの情報図書室の立ち上げに関わった尼川洋子さんから「女性情報とは」をキーワードに適切な情報を手に入れることによってそれぞれがエンパワーしていく方法について話がありました。「情報は人から人、手から手へと伝わっていくもの。女性の地位向上や女性問題を解決していくために必要な女性情報は女性が発信し、草の根メディアで流通する。生の情報はとても大切で、情報を伝え合う『場』を作ることが必要。」と力を込めました。

後半は真邊和美さん(岡山市立箕島小学校長)がコーディネーターとなり、会場からの質問や意見を受けながらの進行。グループや個人で参加している参加者は自分たちの持っている情報や行っている活動を積極的にPR。「情報が少ない地域に住んでいるがどうすれば豊富な情報が手に入るか？」などの質問には「自らの意思表示も大切」と尼川さんからのアドバイスもあり、この日の会場はまさに情報を伝えあう「場」となりました。

ウィズセンター平成16年度事業計画(予定)☑

事業名☑	4月☑	5月☑	6月☑	7月☑	8月☑	9月☑	10月☑	11月☑	12月☑	1月☑	2月☑	3月☑
講座・講演☑	ウィズカレッジ(企画講座、津山さん・さん塾、コミュニケーション講座、パートナーシップ促進講座、男女共同参画メディア講義、ウィズエンパワーメント講座)☑											
		●介護講座4/24	●DV根絶フォーラム5/15		●「女性のチャレンジ支援策」岡山アピール8/1							
技術講習(パソコン)☑ 自立支援講座☑		●岡山5/7~☑●倉敷6/2~☑●岡山6/11~☑		●就職準備講座☑		●岡山9/8~☑	●岡山10/14~☑●津山11/18~☑		●就職準備講座☑		●倉敷1/13~☑●岡山2/9~☑	●起業家応援講座☑●就職準備講座☑
交流事業☑								●ウィズフェスティバル☑				
情報事業☑			●With夏号(No.29)発行☑			●With秋号(No.30)発行☑			●With冬号(No.31)発行☑		With春号(No.32)発行☑	
相談事業☑				総合相談・就業相談 祝日を除いた火曜日から土曜日☑								
			法律相談:原則として毎月第2・4金曜日	こころの相談:原則として毎月第1・3金曜日								からだの相談:原則として毎月第1土曜日☑
地域フォーラム☑ 男女共同参画ゼミナール☑ DVサポーター養成講座☑		●男女共同参画地域フォーラム☑		●男女共同参画ゼミナール(岡山)☑		●男女共同参画ゼミナール(津山)☑						
				●DV被害者サポーター養成講座☑								

技術講習会を開催します☑

ウィズセンターでは、仕事に必要なパソコン技術を身につけていただけるよう、次の日程で技術講習会を開催します。☑

- 応募資格☑ ●結婚・出産・育児・介護など家族の責任の分担を理由に離職した人で、再就職の意志があり、講習終了後、すぐに就職できる状態にある方等☑
- 講習の全期間を出席できる人☑
- 講習内容☑ Word及びExcelの基礎☑
- 講習期間☑ 原則として21日間☑

日程表(予定)☑

No.	講習期間☑	受付期間☑	講習会場☑
1☑	5月7日☑~6月4日☑	4月20日☑~4月23日☑	西日本電子計算学院☑
2☑	6月2日☑~6月30日☑	5月11日☑~5月14日☑	倉敷市倉敷労働会館☑
3☑	6月11日☑~7月9日☑	5月25日☑~5月28日☑	西日本電子計算学院☑
4☑	9月8日☑~10月8日☑	8月24日☑~8月27日☑	西日本電子計算学院☑
5☑	10月14日☑~1月12日☑	9月28日☑~10月1日☑	西日本電子計算学院☑
6☑	11月18日☑~2月16日☑	11月4日☑~1月5日☑	津山男女共同参画センター☑
7☑	1月13日☑~2月10日☑	12月7日☑~2月10日☑	倉敷市倉敷労働会館☑
8☑	2月9日☑~3月10日☑	1月18日☑~1月21日☑	西日本電子計算学院☑

平成16年の日程は上記のとおりです。詳しいことはウィズセンターへおたずねください。なお、変更する場合がありますので、ご了承ください。☑

問い合わせ先☑ Tel 086-235-3309

男女で学ぶ介護講座☑

- 日時☑ 4月24日(土)13:00~16:15☑
- 場所☑ ウィズセンター☑
- 内容☑ 講義と在宅介護実技指導☑
- 講師☑ 妻田令三☑
(社) 呆け老人をかかえる家族の会 岡山県支部代表☑
江里美代子 ほか☑
(赤十字家庭看護法指導員)☑
- 募集人数☑ 70人☑
- 申込期限☑ 4月20日(火)☑

DV根絶フォーラム☑

- 日時☑ 5月15日(土)13:00~16:10☑
- 場所☑ ウィズセンター☑
- 内容☑ 講義とパネルディスカッション☑
- 講師☑ 森田 ゆり☑
(エンパワーメントセンター主宰)☑
- 募集人数☑ 100人☑
- 申込期限☑ 5月8日(土)☑



申込先☑ Tel 086-235-3307

男女共同参画まんが



重要なポストに女性はいない、という思いこみから、女性の存在を無視してしまったことはありませんか?

意識啓発をビジュアルに!

岡山県では、男女共同参画社会づくりに向けた意識啓発を図るため広報記事例を作成しました。日常生活を題材にした「4コママンガ」(20本)と、グラフやイラストを用いた「囲み記事」でビジュアルに表現しています。情報誌や社内報、研修資料などに幅広くご利用ください。上のマンガはその一例です。(全作品は岡山県男女共同参画課のホームページで閲覧可。パネル貸出有)☑

問い合わせ先☑ 岡山県男女共同参画課☑
086-226-7313
ウィズセンター☑
086-235-3307

ウィズライブラリー



『お〜い父親 Part II【夫婦編】』☑

- 汐見 稔幸☑
 - 大月書店(2003年)☑
- 著者が「お〜い、父親Aさん、〈妻と夫〉〈ジェンダーについて〉〈社会の中の男たち〉というテーマで考えてみないかい?」と、問い掛けているようなこの本は、新聞のコラムをまとめたもの。読みやすい一冊です。☑

『おかあさんがもっと自分を好きになる本』☑

- 北村 年子☑
 - 学陽書房(2003年)☑
- 今年は、自己表現・自己覚醒にご注目。子育てがラクになる自己尊重トレーニング。「ママだってほめられたい!」「子ども・家族・友達の良い関係つくりたい!」「私が私であるために」とココロが元気になる一冊です。☑

『男女共同参画の時代』☑

- 鹿嶋 敬☑
 - 岩波新書(2003年)☑
- リストラ・女性の非正規社員化、セクハラ、DV…。「男女共同参画社会基本法」が制定されて4年、この社会の状況は変わりうるか?長く女性労働の現場取材してきた著者が、21世紀の日本社会を決定づける最重要課題をわかりやすく解説しています。☑



ウィズセンターは土・日曜日も開館しています。☒
お気軽に、お越しください。☒

ウィズセンターはこんなところ ☒

男女共同参画社会とは、☒
男女の人権が等しく尊重され、☒
お互いが支えあい、利益も責任も分かちあえる、☒
いわば、女性と男性の☒
イコール・パートナーシップで築き上げる☒
バランスのとれた本当に豊かな社会です。☒
ウィズセンターはこうした男女共同参画社会づくりを☒
推進していくための施設です。☒

- 1 ほしい情報が手に入ります。☒
 - 関係機関の情報誌の閲覧や、男女共同参画に関する図書・ビデオなどの貸出のほか、人材情報も提供しています。☒
 - 就業に役立つ情報を提供しています。☒
- 2 相談ができます。☒
 - 女性の相談員が様々な悩みの相談に応じます。☒
 - 就業に関する様々な相談に応じます。☒
- 3 学習できます。☒
 - 男女共同参画のための各種講座を行っています。☒
 - 再就職に役立つ技術講習会を行っています。☒
- 4 便利な施設が利用できます。☒
 - 男女共同参画に関する県民のみなさんの活動を支援しています。☒
 - 男女共同参画に関する活動の活性化と交流を深めるために、会議室、交流サロン、作業室などを提供しています。☒



お知らせ

メールマガジン「ウィズおかやまかわらばん」の配信をはじめています。希望される場合は、Eメールで件名「メルマガ希望」、本文に「お名前」を明記の上、☒

☒ danjo@pref.okayama.jp

まで、お申し込みください。☒

※送信先のアドレスが申し込みの際のメールアドレスと異なる場合は、本文に送信先のアドレスを明記してください。また、携帯メールへの送信は機種によっては全文を表示できない場合がありますのでご注意ください。☒

センターへのご意見はご遠慮なく☒
ハガキ・FAX・Eメールまたはセンターの提案箱へ☒

「情報誌With」は季刊発行になりました。☒

精神科医師(女性)による☒
特別相談☒

「こころ」の相談☒を始めます。☒

相談日時☒毎月第1・第3金曜日 13:30～16:30

場 所☒ウィズセンター☒

方 法☒面談(予約制)☒

費 用☒無料☒

あらかじめ相談員が☒
お話を伺います。☒

詳しいことについては☒
相談専用電話☒ **086-235-3310** へおたずねください。☒

ウィズセンター利用のご案内 ☒

開館時間☒ … 火～土曜日 ☒ 9:30～20:00 ☒
日・祝日 ☒ 9:30～17:00

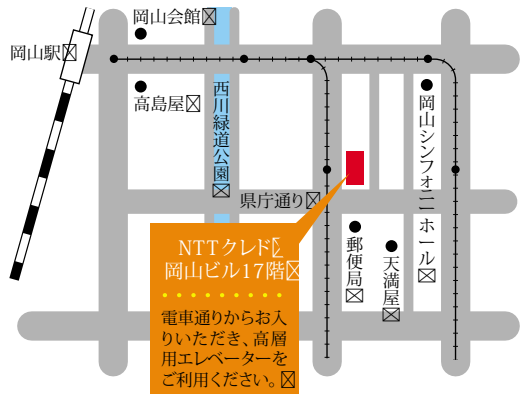
相談員による☒
一般相談☒ … 火～土曜日(祝日を除く) ☒ 9:30～17:00 ☒
就業相談☒ (受付は16:30まで) ☒

特別相談☒ … 弁護士による法律相談☒ ● 原則第2・4金曜日 ☒
(予約制) ☒ 医師によるこころの相談☒ ● 原則第1・3金曜日 ☒
医師によるからだの相談☒ ● 原則第1土曜日 ☒

休館日☒ … 月曜日及び年末年始 ☒

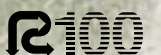
☒ 話 ☒ … 086-235-3307 (代表) ☒
086-235-3310 (一般・特別相談) ☒
086-235-3309 (就業相談) ☒

ホームページ☒ … <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjo/>



交通案内☒ … 岡山駅から徒歩10分 ☒
バス ● NTT岡山前下車すぐ ☒
天満屋バスターミナルから徒歩2分 ☒
市内電車 ● 郵便局前下車すぐ ☒

ウィズ春号(vol.28) / 平成16年3月発行 ☒
編集・発行 / 岡山県男女共同参画推進センター ☒
〒700-0821 岡山市中山下1-8-45 NTTクレド岡山ビル17F ☒
TEL (086) 235-3307 (代) FAX (086) 235-3306 ☒
Eメール: danjo@pref.okayama.jp



古紙配合率100%再生紙を使用しています ☒